

ネイチャーポジティブを広げるために
創立100周年の紙の総合商社と100年後の森をつくる
アフアの森の南エリアの中に
『Afan KPPの森』が誕生



Afan KPPの森にて

右から、C.W.ニコル・アフアの森財団理事長 森田いづみ、KPPグループホールディングス社長 坂田保之氏、同社会長 田辺円氏、国際紙パルプ商事社長 栗原正氏、同財団専務理事 野口理佐子

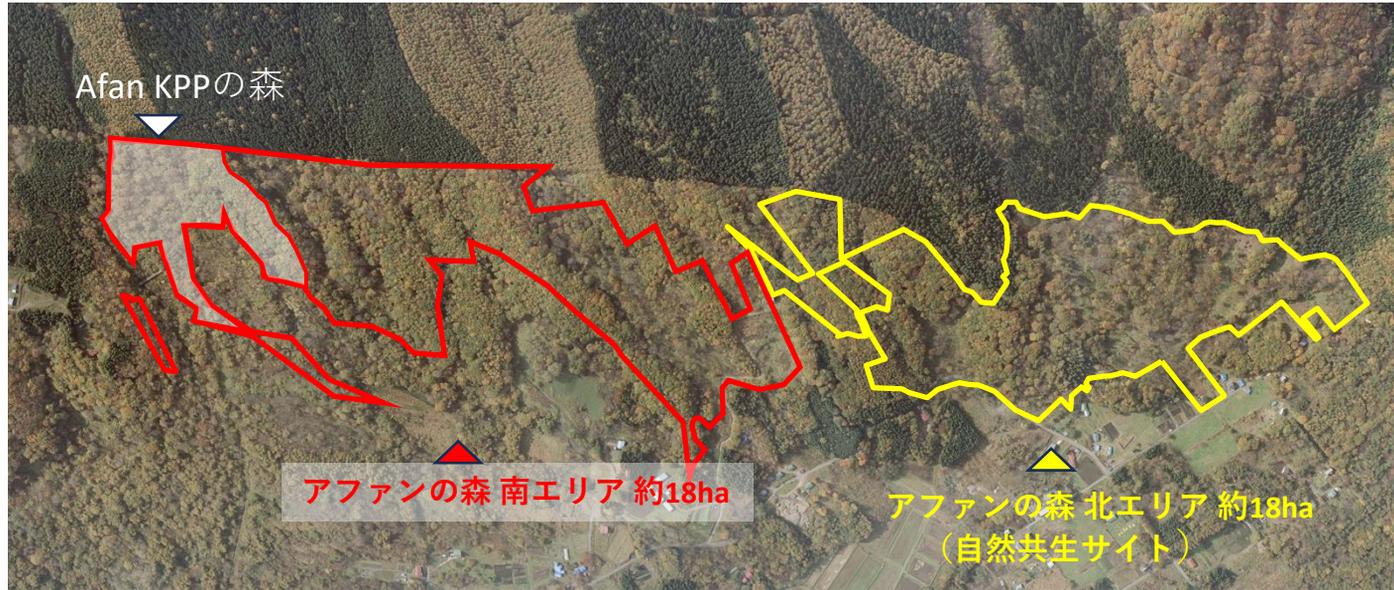
長野県・黒姫で里山の再生に取り組んでいる一般財団法人C.W.ニコル・アフアの森財団（長野県信濃町 理事長森田いづみ、以下当財団）は、当財団のオフィシャルスポンサーであるKPPグループホールディングス株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役会長 兼 CEO：田辺 円、以下、KPPグループ）と森づくり協定の契約を結び、アフアの森の南エリアの一部約3.5ヘクタールを『Afan KPPの森』と名付け、生物多様性の回復を目指した森林生態系の再生活動を共に推進しています。今年創立100周年を迎える紙の総合商社KPPグループと100年後の森を共に創成してまいります。

<世界的な課題に取り組むために>

一昨年12月に開催された生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）において、2020年以降の生物多様性に関する世界目標となる「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択されました。同枠組では、生物多様性の観点から2030年までに陸と海の30%以上を保全する「30by30目標」が主要な目標の一つとして定められ、生物多様性の損失を止め、反転させ回復軌道に乗せるための緊急な行動をとる必要があることが明記されました。

生物多様性の回復を38年かけて実践している当財団の北エリアは、環境省より「自然共生サイト」として認定されましたが、当財団が所有するまだ手入れが及んでいない南エリアの森の多様性回復を加速させるために、企業とのタイアップを呼びかけたところ、かねてよりオフィシャルスポンサーであるKPPグループが賛同され、『Afan KPPの森』が誕生しました。共に生物多様性の回復を目指してまいります。

アフンの森エリアと『Afan KPPの森』について



黄色枠：北エリアは、1986年から放置され荒廃していた森を当財団が買い取り、森の整備が進められた。今までに絶滅が危惧される動植物約65種以上が確認されるなど生物多様性の回復がみられる。2024年10月に環境省より「自然共生サイト」に認定。

赤色枠：南エリアは、多様性豊かな森を広げるために手入れが必要な森を2009年ごろからトラスト（買取）をおこない、一部の整備整備を進めている生物多様性の回復が必要なエリア。白いエリアを『Afan KPPの森』として共同で森づくりを推進していく。



上：ヤマシャクヤク（ポタン科）
〈長野県絶滅危惧Ⅱ類（VU）〉



右：ツチアケビ（ラン科）〈長野県絶滅危惧Ⅱ類（VU）〉

＜Afan KPPの森の概要＞

名称：Afan KPPの森

広さ：35,400平米(3.54ha) サッカーコート約5面分

植生：落葉広葉樹林 コナラーミズナラ群落 一部オニグルミ・ミズキが優占している。

概要：2009年当財団購入、トラスト時は、オニグルミ・ミズキ・コブシなどが主要種となり、ツルに絡まれ下層は低木やササが優占した、立ち入るのが困難なほどの鬱蒼とした森林だった。いくつかオオバボダイジュの大きな株があるのと、アフンの森全体の中では、このエリアのみフサザクラが自生し、北エリアでは見られない様相を呈している。また、ヤマシャクヤク（ポタン科）〈長野県絶滅危惧Ⅱ類（VU）〉やツチアケビ（ラン科）〈長野県絶滅危惧Ⅱ類（VU）〉が、アフンの森内で初めて確認されている。

整備作業やモニタリングは、KPPグループの社員研修の機会を通して共に推進していく。



KPPグループホールディングス株式会社
KPP GROUP HOLDINGS CO., LTD.



The C.W. Nicol
Afan
Afan Woodland Trust

「紙でつなぐ、未来をつくる」 創立100周年コーポレートメッセージ

< KPPグループホールディングス株式会社 >

文字の起源を遡ると紀元前4000年にたどりつきます。

言葉のコミュニケーションに文字が加わり、紙が発明され、印刷技術も進化を遂げました。また、印刷機の発明が中世ヨーロッパで起こった文化運動（ルネッサンス）や科学革命、宗教改革に寄与するとともに、印刷媒体である紙は文字・活字文化を支え、人に寄り添い、思いを伝える情報伝達手段として人類に貢献してきました。

そして今、紙は地球環境にやさしい素材として、新たな領域に踏み込み、その用途はさらに広がりを見せています。KPPグループは紙パルプ産業の流通の担い手として、紙という素材に付加価値を見出し、循環型社会の実現に貢献していきます。

「Afan KPPの森」 100年先の未来を見据えた森林創成へ

私たちは「サステナブルな森づくりによる自然界と人類の共生」をテーマにこのエリアの整備に取り組んでいきたいと考えています。

国内ではその大半が失われた樹齢100年を超える大径木林を再び蘇生し、樹齢の異なる樹木や樹種がモザイク状に混ざり合う「生物多様性あふれる持続可能な森林」を目指してまいります。そして、人々が自然界と触れ合うことで、心豊かな人生を歩む一助になればと願っております。

< 報道関係者お問い合わせ先 >

KPP グループホールディングス株式会社
グループコーポレート・コミュニケーション室
TEL 03-3542-4169 Mail:kpp_cc@kpp-gr.com

森を守る 子どもたちの笑顔と日本の未来のために

< 一般財団法人C.W.ニコル・アフアの森財団 >

故C.W.ニコルは、1986年より日本の森の荒廃を憂い、放置された里山を自ら買い取り生命力豊かな日本本来の森を甦らせることを目的に森づくりを始めました。その森をアフアの森と名付け、森の再生活動を続け、2002年、森を永遠に残すためにC.W.ニコル・アフアの森財団を設立しました。手入れを始めて37年目の森には、絶滅が危惧されている動植物がこれまでに70種以上（北南エリア合わせて）確認されています。森林保全活動を通じて、生物多様性豊かな「自然共生型社会」の形成に寄与することを目的に活動を展開しています。

本件に関する取材のお問い合わせ

一般財団法人C.W.ニコル・アフアの森財団

担当 野口 TEL 090-3089-7005 E-mail: info@afan.or.jp